

おおだて 市議会だより

96号

平成22年5月1日

平成22年 **3月定例会** (会期: 2月23日~3月15日)

- 主な議案等審査結果 P.2
- 一般質問 P.4
- 各常任委員会の審議内容 P.9
- 私もひ・と・こ・と P.10

議案等審査結果(主なもの)

3月定例会（会期：2月23日～3月15日）・・・議案等112件を審査しました。

内訳・・・条例案14件、単行案16件、予算案48件、同意2件、諮問1件、報告1件、承認1件、議員提出分条例1件、意見書案2件、資格決定書案1件、議員提出分承認1件、請願1件、陳情5件、継続審査分請願1件・陳情17件

主 な 案 件 ・ 内 容	結 果																												
○議会の議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正案 ○市長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正案 ○教育長の給与等に関する条例の一部改正案 ○大館市病院事業管理者の給与及び旅費に関する条例の一部改正案 秋田県人事委員会の勧告を踏まえた職員の給与改定の状況を勘案し、給与月額を減額します。 <table><tr><td>議 長</td><td>41万9,000円</td><td>⇒</td><td>41万8,000円</td></tr><tr><td>副 議 長</td><td>38万1,000円</td><td>⇒</td><td>38万円</td></tr><tr><td>議 員</td><td>36万3,000円</td><td>⇒</td><td>36万2,000円</td></tr><tr><td>市 長</td><td>86万6,000円</td><td>⇒</td><td>86万4,000円</td></tr><tr><td>副 市 長</td><td>68万7,000円</td><td>⇒</td><td>68万6,000円</td></tr><tr><td>教 育 長</td><td>58万円</td><td>⇒</td><td>57万9,000円</td></tr><tr><td>病院事業管理者</td><td>68万円</td><td>⇒</td><td>67万9,000円</td></tr></table> ※ただし、副市長は23年3月31日まで60万円とします。	議 長	41万9,000円	⇒	41万8,000円	副 議 長	38万1,000円	⇒	38万円	議 員	36万3,000円	⇒	36万2,000円	市 長	86万6,000円	⇒	86万4,000円	副 市 長	68万7,000円	⇒	68万6,000円	教 育 長	58万円	⇒	57万9,000円	病院事業管理者	68万円	⇒	67万9,000円	原案可決
議 長	41万9,000円	⇒	41万8,000円																										
副 議 長	38万1,000円	⇒	38万円																										
議 員	36万3,000円	⇒	36万2,000円																										
市 長	86万6,000円	⇒	86万4,000円																										
副 市 長	68万7,000円	⇒	68万6,000円																										
教 育 長	58万円	⇒	57万9,000円																										
病院事業管理者	68万円	⇒	67万9,000円																										
○財産の無償譲渡について 以下の市有財産を無償譲渡します。 <table><tr><td>譲渡する財産</td><td>大巻児童館</td><td>譲渡の相手方</td><td>大 巻 常 会</td><td>常会長</td><td>小笠原英一 氏</td></tr><tr><td>〃</td><td>赤川担い手センター</td><td>〃</td><td>赤 川 常 会</td><td>会 長</td><td>北林 良英 氏</td></tr><tr><td>〃</td><td>羽立集落施設</td><td>〃</td><td>羽 立 部 落</td><td>常会長</td><td>石井 良悦 氏</td></tr><tr><td>〃</td><td>蛭沢集会施設</td><td>〃</td><td>蛭沢部落会</td><td>会 長</td><td>笹木 克巳 氏</td></tr></table>	譲渡する財産	大巻児童館	譲渡の相手方	大 巻 常 会	常会長	小笠原英一 氏	〃	赤川担い手センター	〃	赤 川 常 会	会 長	北林 良英 氏	〃	羽立集落施設	〃	羽 立 部 落	常会長	石井 良悦 氏	〃	蛭沢集会施設	〃	蛭沢部落会	会 長	笹木 克巳 氏					
譲渡する財産	大巻児童館	譲渡の相手方	大 巻 常 会	常会長	小笠原英一 氏																								
〃	赤川担い手センター	〃	赤 川 常 会	会 長	北林 良英 氏																								
〃	羽立集落施設	〃	羽 立 部 落	常会長	石井 良悦 氏																								
〃	蛭沢集会施設	〃	蛭沢部落会	会 長	笹木 克巳 氏																								
○財産の無償貸付けについて〔ハチ公小径(こみち)〕 中心市街地の活性化を図るため、大館市大町商店街振興組合に市有財産（土地・建物）を無償で貸付けします。 貸付けする財産 土地（字馬喰町48番地1ほか）、建物（旧正札竹村） 貸付けの相手方 大館市大町商店街振興組合 理事長 横井 伸一 氏																													
○平成21年度大館市一般会計補正予算（第8号）案 国民健康保険特別会計繰出金の追加、市立総合病院・扇田病院を支援するための負担金・補助金の追加、生活保護扶助費の追加、除雪費の追加、生活バス路線維持費補助金 などにかかわる予算です。																													

主 な 案 件 ・ 内 容	結 果
○平成21年度大館市一般会計補正予算（第9号）案 長木保育所屋根塗装事業、たしろ保育園床改修事業、養護老人ホーム成章園スプリンクラー整備事業、特別養護老人ホームつくし苑スプリンクラー整備事業、老人いこいの家屋根塗装事業、市道側溝改良事業、市道舗装改良事業、市道改良事業、市営住宅補修事業、大森野公園整備事業、ハチ公荘屋根等補修事業、味噌内橋橋梁補修事業、農村婦人の家排水設備等整備事業、有浦小校舎水飲み場設置事業、川口小通路舗装事業、城南小照明器具改修事業、第一中プール塗装事業、真中公民館体育館屋根葺替事業、田代体育館屋根塗装事業、長根山運動公園陸上競技場改修事業などにかかわる予算です。	原案可決
○平成22年度大館市一般会計予算案 私立保育所緊急整備事業補助金（エンジェル保育園）、有浦保育園改築事業、ありうらの森整備事業、子ども手当扶助費、小柄沢墓園造成事業、耕作放棄地対策事業、ハチ公荘ペレットボイラー設置事業、小・中学校校務用コンピュータ整備事業、小・中学校防犯カメラ等整備事業、小学校スクールバス購入事業（山瀬小学校）、スクールカウンセラー配置事業、特別支援教育支援員派遣事業、家庭教育推進事業、小・中学校耐震対策事業、十二所公民館改築事業、中心市街地活性化事業、御成町南地区土地区画整理事業、中心市街地住宅建設事業、市営住宅ストック総合改善事業、古片山下公園整備事業、消防本部サイレン塔施設改良、消防本部庁舎耐震診断業務委託、LED防犯灯取替工事、緊急雇用創出臨時対策基金事業、ふるさと雇用再生臨時対策基金事業、イルミネーション設備費補助金、地震防災マップ作成事業、参議院議員通常選挙費、国勢調査費 などにかかわる予算です。	賛成多数 により 原案可決 (賛成26 反対 1)
○教育委員会の委員の任命について 丸山 芳也 氏（一心町） 高橋 善之 氏（谷地町）	同 意
○人権擁護委員の候補者の推薦について 米川 重修 氏（有浦一丁目）	異議なし

請願・陳情

3月定例会には請願1件、陳情5件が提出され、2件採択、残りの4件は継続審査となりました。

3月定例会に提出されたもの

○非核三原則の法制化を求める意見書の提出要請について ○がん患者の支援について	採 択
○最低賃金の大幅引き上げと全国一律最低賃金制度確立を国に求める意見書の提出要請について ○最低保障年金制度創設などを求める意見書の提出要請について ○名護市長選挙で示された民意を尊重し、公約を守ることを求める意見書の提出要請について ○米価の下落に歯どめをかけ、再生産できる米価の実現を求める意見書の提出要請について	継続審査

－ 意見書の提出 －

「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のNPT再検討会議での採択に向けた取り組みを求める意見書
《提出先》衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、外務大臣
非核三原則の法制化を求める意見書
《提出先》衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣

一般質問

会期中の3月1日、2日の2日間にわたって一般質問を行い、次の8議員が市政を取り巻く諸問題について市の方針をたしました。

主な質問と応答の内容は次のとおりです。

○質問者（質問順）

①佐藤 久勝 議員
（平成会）

②藤原 美佐保 議員
（平成会）

③笹島 愛子 議員
（日本共産党）

④田中 耕太郎 議員
（いぶき21）

⑤佐々木 公司 議員
（いぶき21）

⑥安部 貞榮 議員
（いぶき21）

⑦富樫 安民 議員
（市民クラブ）

⑧藤原 明 議員
（平成会）

佐藤久勝 議員
さとうひさかつ



小畑市長

5期20年目を迎えるの

心境について

〈問〉 残された1年、市長はどの点にポイントを置いて実行・行動するのか。6期目に挑戦する気持ちがあるのか。

〔市長〕 本年は、今までまいた種を大きく育てる前進の年にしたいと考えている。特に、こでんりサイクル事業などのリサイクル産業やニプロ、ニプロフアーマなどの健康産業を大きな柱とし農林畜産業の振興に全力を挙げて取り組んでいく。今はこれらの課題への対応に自分の持てる資質のすべてをささげ任期を全うしたいという気持ちである。

市文化財の保護について

〈問〉 市指定史跡の松峯神社

神殿に立ち木が倒れ込んだ被害に市はどのように対処するのか。

〔教育長〕 大館市文化財保護条例第10条の規定に基づき、所有者の維持管理の状況、また文化財の破損原因や修理経費などを十分協議し、さらに文化財保護審議会のご審議もいただきながら、総合的に勘案した上で議会にお諮りしたい。

JR花輪線

大滝沢踏切の

拡幅について

〈問〉 住民の生命、安心・安全を守るためにも踏切の拡幅とその前後の林道の拡幅等インフラ整備がぜひとも必要である。

〔市長〕 国・県と最終調整中であるが、道整備交付金を活用した事業の採択が見込めることとなった。また、道路拡幅に必要な土地について、所有者から無償譲渡の承諾を得ることができたので、本定例会にこの路線に係る市道認定議案を提出するとともに、踏切の拡幅を含む道路改良事業の関係予算を計上している。



藤原美佐保 議員
ふじわらみさお



市長の政治姿勢を

検証する

〈問〉 土壌浄化・家電リサイクル事業は全国に先駆けた事業であり国のため地域のため役立っている事業であると思うが、今日に至っての市長の思いは。

〔市長〕 土壌浄化事業は、すべての鉱山の灯が消えた市に、リサイクルを柱に鉱山の技術・施設・人材を生かし新たな産業として創出することができた。一方、家電リサイクルについて、も秋田県北部エコタウン計画の事業として位置づけられて操業され、年間17万台を処理するに至っている。両事業ともさまざまなご意見があるが事業者の方々の努力と市民のご理解があつて今日実を結ぶものとなっている。

〔問〕 農業振興対策について、新政権の農業政策では農業の6次産業化が大きくクローズアップされているが、大館市の取り組み方については。

〔市長〕 6次産業化については、生産・加工・販売、つまり農業と2次・3次産業の融合により新たなビジネスや産業を創出し、雇用と所得を確保しようとするものである。本市において6次産業化のモデルはできつつあるが、より多くの農業者の参加をいただくために人材育成等ソフト面での取り組みに力を入れて行きたいと考えている。

また、遊休農地の解消や高齢化による労働力不足に対し、若者の就農をどう進めていくのかについては、認定農業者の確保、集落営農組織の設立や法人化による経営規模の拡大によって効率的かつ安定的な農業経営が実現可能となることから、農地の集積化を図り、若者の就農意欲につながる所得向上に向けた取り組みを実施してまいりたい。

大館市食育推進計画

について

〔問〕 実動に向けた体制づくりを。

〔市長〕 昨年4月に健康推進課・福祉課・農林課・学校教育課など食育に係る部署による横断的な委員会を庁内に組織

し、一丸となって取り組んできた。そこでまとめたものが「おいしい笑顔が生み出す元気なおだて」のスローガンのもと、4つの基本方針を掲げている。①食の楽しさを広げる、②心とからだの健康づくりを広げる、③食と農の豊かなかわりを広げる、④食育の輪を広げる、である。食育は単に健康な体づくりだけでなく、健全な子育てや地域固有の食を守ることもつながるため、重要な施策の一つと位置づけ、私が先頭に立ち強い決意で取り組んでいく。

ささしまあこ
笹島愛子 議員



市長は秋田県後期高齢者医療広域連合議員として
値上げ案に賛成したのか

〔問〕 高齢者を75歳以上という年齢で線引きして差別するこ

の医療制度は、高齢者の医療切り捨てをねらったものであり、社会保障改悪の象徴ともいえるべき問題である。高齢になればり患率は高くなる。安心して病院で受診できるようにすることこそが求められている中、保険料の引き上げなどんでもないこと。市長がこの引き上げ案に賛成したのであれば心が痛まなかったのか。

〔市長〕 広域連合での試算では年平均保険料は1人当たり約13%増となったが、被保険者の負担を抑制するため2・7%増が提案された。今後は政府の高齢者医療制度改革会議の動向を注視しながら、広域連合と連携を深め、まずは現行制度の運営について万全を期していく。

緊急通報装置の 貸与方法の改善を

〔問〕 本市の高齢者福祉サービスに緊急通報装置の貸与制度があるが、今後も利用者がふえる可能性がある。利用料も大館・比内・田代地域との違いや委託先の違いなどもある。利用料の支払い方などの改善を求める要望もある。利用者や協力者等の声を聞きながら改善すべきではないか。

〔市長〕 この緊急通報装置貸与事業では現在、大館地域では169台、比内地域では74台、

田代地域では68台が利用されている。緊急時の対応には迅速性・確実性が求められているため、比内・田代地域についても専門の警備会社に委託する方法が望ましいと考えているが、県の規制により、警備員が待機する基地局から25分以内に現場に到着しなければならぬとされている。今後、警備会社に対して基地局の拡大を要望しながら一本化に向けて検討する。利用料の分割納付については希望する納付方法を個別に確認し対応する。

小規模事業者 登録制度について

〔問〕 小さな事業者にも仕事ができるよう制度の創設を求め、平成15年から実施されており業者からは喜ばれている。しかし、一課で取りまとめが行われていないため、仕事量、業種、金額等が一目瞭然ではない。一課に集約することが必要だ。

〔市長〕 この制度は50万円以下の軽易な修繕工事等について、経営規模の小さい登録事業者の受注機会を拡大するもの。年間総件数は2000件余り。今後はこれまでどおり各課が一定のルールに基づきながら発注し、半年ごとの市全体の状況について契約検査課で取りまとめ把握する。

たなかこうたろう
田中耕太郎 議員



平成22年度予算と 市長マニフェストの 関連について

〔問〕 予算編成に地方財政健全化法の指標を意識してゐるか。

〔市長〕 健全化判断比率指標は4つあるが、平成20年度決算においてはすべて基準をクリアしている。平成22年度予算編成時点で実質公債費比率は概算で17・4%と20年度決算より0・3ポイント下がる見込みで、地方債残高が前年と比較して25億円減少して将来負担比率も下がり、健全化指数としては改善していく見込みである。

〔問〕 財政が厳しいとは、今の財政状態を健全化していく作業が厳しいのか、今の財政状況そのものが厳しいのか。

〔市長〕 基幹収入である市税が減少し地方交付税等の依存財

源の比率が高まっている状況であり、財政が厳しいとは今の財政状況そのものが厳しいということ、引き続き企業誘致などの雇用の創出を促進し地域活性化を図る。

地域コミュニティ

構築について

〔問〕 地域コミュニティ推進計画整備と予算の必要性をどのように考えているか。

〔市長〕 地域活動の拠点である地域コミュニティは、自治会や町内会を中心に維持されている。少子高齢化の進展や人口流出により核家族化、高齢者世帯・一人暮らし世帯の増加で地域コミュニティの維持が難しくなり地域の活力が低下している。市としての地域協働のまちづくりを進めるため、限界集落対策を含めた地域コミュニティ活動を最大限支援するコミュニティ推進予算が必要との提案については、各団体が実施する地域活性化事業を助成し、その活動を支援してきている。地域活動の仕組みづくりから事業の実施まで総合的に支援する（仮称）地域づくり協働事業補助金の創設を考えている。

市長5期目の

所信表明での4点の

マニフェストについて

〔問〕 市長5期目の総仕上げとなる22年度予算で市長のマニフェストが仕上がるのか。その進捗状況はどうなっているのか。

〔市長〕 4つの重点施策をマニフェストに掲げ取り組んできた。財政基盤強化は、平成17年度から効果額の累計が約50億9000万円。少子化対策は子どもを安心して生み育てる環境整備に取り組んでいる。高齢者・障害者対策は障害者自立支援協議会を立ち上げ、施策の実現に取り組んでいる。雇用対策としてはニブログループを核とする健康産業の成長により3年間で約250人の新規雇用を創出し、誘致企業全体では4265人の雇用となっている。

〔問〕 任期中まいた種を育てる年にするとしているが、実ったものを刈り取る年も必要と思う。育てたものの刈り取りをほかの方へゆだねるつもりか。

〔市長〕 刈り取るのは市民である。

佐々木公司 議員



フードデザート（食の砂漠）について

〔問〕 社会的弱者への対策とまちづくりの観点から、生鮮食料品の購入が困難になるフードデザートの当市の現状と対策は。

〔市長〕 中心市街地の空洞化や衰退で、高齢者が歩いて生鮮食料品等を買に行けない実態が昨年の調査で分った。食育推進計画の中の高齢者世帯対策やまちなか居住推進と限界集落対策を含む交通移動手段の対策などに取り組むたい。

大館市の

観光振興について

〔問〕 大館市の観光情報発信には総力を挙げ取り組みが必要。ハチ公映画の効果やふるさとCM大賞への取り組み、観光戦略の立案、広域観光への考え方は。

〔市長〕

海外からハチ公の照会があったり、PR効果があった。犬文字の演出や関連商品の開発など地域ブランド化にも効果があった。CM大賞については、今後も継続的に参加できるように支援したい。観光基本計画の成案を新年度早々に提示し観光素材の洗い出しや観光コースの作成に取り組む、青森県側との広域観光連携の中に位置づけながら、東北新幹線新青森駅開通を本市への誘客につなげたい。

特定検診（メタボ健診） ・がん検診について

〔問〕 メタボ健診・がん検診の受診率向上にどのように取り組むのか。

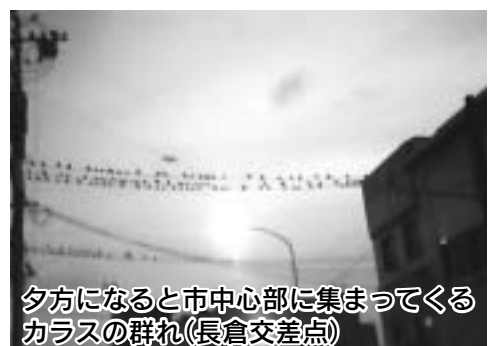
〔市長〕 健診方法の見直し、広報活動の充実、未受診対策を実施予定。がん検診の呼びかけ強化の電話等による直接勧奨や日曜日・早朝健診や講演会開催など、年齢や対象に応じて機会あるごとに周知を図る。全国の先進地事例なども参考にしながら受診率向上に努めたい。

カラス対策について

〔問〕 調査から具体的対策に移行すべきでは。

〔市長〕 カラスの総数は昨年とほぼ同数の4200羽。総数のコントロールとエサ対策を講じているが、効果的な対策は見

い出せず、対応に苦慮している。今後もさらなる有効な方策を探りたい。



夕方になると市中心部に集まってくるカラスの群れ(長倉交差点)

大館地区

総合制高校に

ついて

〔問〕 高校統合の進捗状況はどうなっているのか。

〔市長〕 県では第5次秋田県高等学校総合整備計画を踏まえながら校舎の耐震補強を優先して行っており、耐震診断と補強工事を平成25年度までに終了する予定。平成23年度から始まる第6次高校総合整備計画の素案の中に第5次から引き継ぐ統合等再編整備として大館地区の高校統合が記載されているだけで、具体的な計画が盛り込まれず、先送りの状況。本市のまちづくりの観点からも引き続き県に要望していく。

あべさだえ
安部貞榮 議員



地域について

〔問〕 人口の減少や少子高齢化が進み市内の集落や町内会の共同活動等が困難な状況から今の時期に住民の自治意識を高めつつ、希望を持って暮らしていけるよう、身近な単位で住民の手づくりによる（仮称）振興計画の作成を奨励する考えはないか。

〔市長〕 地域の活力が低下してきており、この維持がぜひとも必要であることから地域活動の仕組みづくりから事業の実施まで総合的に支援する（仮称）地域づくり協働事業補助金を創設したい。

農業の6次産業化の取り組みについて

〔問〕 農業の生産・加工・販売を二元的に取り組むため、市

がジョイント役となり消費者も含めた特産品（加工）開発会議や農・商・工連携促進協議会などを立ち上げ、取り組むべき。

〔市長〕 養豚企業での生産、生ハム工場での加工、市観光物産プラザなどでの販売などの可能性の検討や消費者・事業者などを巻き込んだ農・商・工連携体制を整え、農産物を活用し新たな産業創出、雇用・所得確保につなげたい。

交流・滞在型観光について

〔問〕 地域生活者に主眼を置き、地域の自然・文化・産業・人材、ハチ公などあらゆる資源を市民とともに磨き、個性を生かし、もてなしの心こそ持続可能な観光と考えるが市長の考えや取り組みの現状は。

〔市長〕 青森までの新幹線延伸を12月に控え、2次アクセスや回遊ルートなどを含め、また、市内の優良な素材を魅力的なものに高め、そのメニューを市民が自信を持って発信できるような市民参加型の受け入れ態勢の構築やもてなしの心を醸成し来訪者を歓迎する風土の形成に努めたい。

県有施設譲渡の対応について

〔問〕 県所有の樹海ドームや

北部老人福祉総合エリアの無償譲渡の打診に活用を含めてどう対応するのか。

〔市長〕 これらの施設は県北一円を対象エリアとし、広く県民にご利用いただくことを念頭に設置された経緯があり、現在は指定管理者として樹海ドームは大館市文教振興事業団が、北部老人福祉総合エリアは秋田県社会福祉事業団が有効活用を進めている。これら施設は、市が譲渡を受け市単独の施設として利用していくものではなく、市内外の皆様幅広くご利用いただけるよう検討する。

とがしやすたみ
富樫安民 議員



新年度予算と市民の暮らしの対応について

〔問〕 小畑市政5期目、仕上

げの一丁目一番地で暮らしはどのような。

〔市長〕 国の臨時対策基金事業をベースに雇用対策の継続が重要。少子化対策としての保育園増設や保健・医療・福祉など市民生活に直結した各施策に例年を上回る予算を確保した。

農業施策について

〔問〕 戸別所得補償モデル事業における市の重点戦略は。

〔市長〕 飼料用米の生産拡大を進め単独助成する。米粉用米は学校給食のパンに活用する。戦略作物であるアスパラガスなどの県の助成とあわせ、本格的に水田の利用率向上に取り組む。

〔問〕 国の土地改良事業予算の大幅削減への対応は。

〔市長〕 内示がまだなので不透明だが、新規要望事業が大幅におくれたり継続事業に影響のないよう国・県へ強く働きかけて予算確保に努めたい。

教育現場における社会環境への対応について

〔問〕 不登校や引きこもりは本人・家族・学校にとって苦しい悩み。社会全体で素早く対応し、明るい未来をつくってあげたいが、その対策は。

〔教育長〕 未然防止策として家庭訪問・支援教室・心の教育

相談員など専門家による対応を実施している。新年度からスクールカウンセラーを増員し、児童生徒及び保護者としつかりと寄り添いながら改善に努める。

〔問〕 児童生徒への携帯電話での出会い系サイトによる性犯罪への危険性や掲示板やブログへの書き込みによるいじめなどの心配はないのか。

〔教育長〕 学校への携帯電話持ち込みは原則禁止している。地域や実態を考慮し特例を認めている場合もある。不適切な利用の実態もあり、正しい使い方を指導し問題発生防止に努めているが、保護者を初め、社会全体で取り組んでほしい。

がん死亡率

全国ワーストワンからの脱却対策について

〔問〕 県との連携や受診率向上に向けた対策は。

〔市長〕 県の新方針が具体化され次第対応したい。日曜日や早朝の検診、検診車での回数増や受診定員枠増など、受けやすい環境に向け医師会とも連携を取り受診率向上を図っていく。



藤原 明 議員
ふじわら あきひろ



比内地鶏

鶏ふん処理施設

建設について

〈問〉 どのような支援体制を考えているか。

〔市長〕 比内地鶏ブランドイメージを確かなものとし、出荷量を伸ばしていくためにも必要な施設と考える。建設に要する経費については、土地の購入費と造成費を市とJAが負担し、建物と設備は国の半額補助で市が整備し、借入金返済額の一部を生産部会が負担する。生産部会員には1羽当たり年間30円を上限として負担していただく方向で調整を進めている。農業の6次産業化につながるもので、早期建設に最大限努力したい。

市職員の不祥事に

関連して

〈問〉 マイカー通勤者を使用届や任意保険の加入義務などを定めた管理規程を定めるべき。

〔市長〕 任意保険加入の義務化については、市職員の交通事故による賠償責任は雇用主である市にも及ぶ可能性があることから、マイカー使用の届け出を含め、これらの義務を規定する管理規程について、今後、他市の例も参考にしながら検討してまいりたい。

急増する生活困窮者や

生活保護世帯への

対応について

〈問〉 ケースワーカーを増員し、自立就業への支援を強化するべき。

〔市長〕 本市では現在ケースワーカーを8人配置している。1人当たりの担当世帯は現在89世帯となっており、標準とされる80世帯を上回っている状況である。財政状況や定員管理計画を見据えながら増員も検討するなど適切な配置に努める。今後はハローワークと連携した自立支援プログラムを積極的に活用し、早期の自立に向けた支援をしてまいりたい。

減少する

消防団員の確保への

対応について

〈問〉 機能別消防団員のよう

な制度を導入する考えは。〔市長〕 平成21年4月時点で、本市の消防団員の定数は1280人で充足率は87%となっている。今後本市においても消防団員の高齢化やなり手不足に対応するため、機能別消防団員制度や戦域消防組織など、新たな消防団体制のあり方を検討してまいりたい。

市民と市議会との意見交換会を開催しました

市議会議会改革協議会の主催により田代公民館を皮切りに意見交換会が開催されました。



田代公民館での意見交換会の様子

田代公民館（4月19日）、比内公民館（4月20日）、中央公民館（4月21日）の会場で3日間にわたり開催された意見交換会では、市議会に対し日ごろ感じていること、大館市政に対するご意見など、さまざまな議論が活発に交わされました。

市議会では、今後も意見交換会を随時開催し、市民の皆様のご意見・ご提案を市政に反映してまいりたいと考えておりますので、開催時には多数の参加をお待ちしております。

行政視察の

受け入れ状況

（21年度下半期）

- 10月1日 埼玉県春日部市 7名
- 10月2日 商工業の振興について
- 10月2日 岩手県洋野町 15名
- 10月2日 特定農業法人
- 10月15日 立花ファームについて
- 10月15日 茨城県笠間市 7名
- 10月15日 中心市街地
- 10月26日 再生プランについて
- 10月26日 北海道函館市 1名
- 10月26日 レアメタル
- 10月27日 回収事業について
- 10月27日 東京都中央区 11名
- 10月28日 全国学力・学習状況調査を活用した取り組みについて
- 10月28日 静岡県御殿場市 10名
- 10月29日 エコタウン事業について
- 10月29日 神奈川県大和市 3名
- 10月29日 犬都記念公園
- 11月16日 ドッグランについて
- 11月16日 千葉県四街道市 3名
- 11月16日 ごみ処理施設の
- 11月16日 PFI導入について
- 1月27日 徳島県石井町 7名
- 1月27日 バイオマスタウン

構想について

委員会から

会期中の3月3日、4日、5日、8日、10日、11日の6日間にわたって各常任委員会で行った。一般会計予算案の歳入には、国・県からの「子ども手当負担金」など、歳出には、今夏に予定されている「参議院議員選挙」や10月に実施する「国勢調査」に関連する予算なども措置されており、本委員会では原案のとおり可決すべきものと決定した。

総務財政常任委員会

◇平成22年度当初予算案について

22年度一年間の予算として編成された当初予算案の審査を行った。一般会計予算案の歳入には、国・県からの「子ども手当負担金」など、歳出には、今夏に予定されている「参議院議員選挙」や10月に実施する「国勢調査」に関連する予算なども措置されており、本委員会では原案のとおり可決すべきものと決定した。

◇市職員の削減について

平成22年度から25年度までの期間とする行革（第4次大館市行財政改革大綱）の実施計画案が報告された。市の施設や事務事業の民間委託・見直しなどの説明を受けたが、そのうちの職員数の削減計画に関して委員から、歳入確保の対策などほかに

でき得る手段をとった上での削減でなければならぬとの意見があった。市長は、平成17年に1市2町が合併したときには8万7000人だった人口が、今や8万1000人にまで減っており、あと十数年後には合併前の大館市の人口になるだろう。人口の減少に応じて職員数を削減することにより、コンパクトな行政体として市民のためのサービスを考えていくと答えた。



古片山下公園整備予定地を現地調査
(建設水道常任委員会)

厚生常任委員会

◇自殺者対策について

過去10年間で自殺者が全国で3万人を超えている。当市において自殺者を減らすための対策を考えているのかとの問いに、市長は、秋田県において自殺者は平成20年で410人、うち当市は26人。21年は県で438人、うち当市は28人。これは全国的な平均からいっても極めて高い数字。市でも自殺者対策の緊急事業を21年度からスタートさせており、電話などによる相談事業、講演会等を開催している。今後、サイコセラピストを相談相手とした体制の構築・強化を図りたいと答えた。

◇不妊治療について

少子化により地域の行く末が心配。有効な手立てとして不妊治療も対策の一つ。市としても治療費の補助や相談窓口を開設する予定はないのかとの問いに、市長は、不妊治療に対する補助事業は県で行っており、利用された方は平成16年で8人、21年は25人で3倍にふえている。市立総合病院は県内にたった4カ所しかない不妊治療の指定医療機関であるので、まず来院して

いただければ、こちらも十分な相談体制をとらせていただくと述べた。

教育産業常任委員会

◇養豚農場の概要について

これまで誘致活動を展開してきた養豚農場について、2社から本市への進出を示す「養豚農場進出協議書」が提出されたことが報告された。進出予定地は早口と岩瀬地内で、大きな面積の土地の開発となることから操業開始まではかなりの時間を要するとのことだが、将来的に2社合わせて27人の新規雇用を予定している旨報告された。

◇大館市観光基本計画について

観光部門の基本計画で観光施策の指針となる大館市観光基本計画（案）が示された。計画期間は平成22～31年度で、計画数値目標に宿泊者数20万人を掲げ、地域経済の活性化、地域連携・都市間連携、来訪者を歓迎する素地の醸成とまちづくりの促進を観光振興のビジョンとする観光推進体制が示された。

建設水道常任委員会

◇浄化槽設置費補助金について

これまで浄化槽設置費補助金の申込者が予定基数を超えると抽選を行い当選者のみに補助金を交付していたが、公共下水道の普及が遅れていることを考えると申込者全員に補助金を交付するよう委員から要請があった。これに対し市長は、21年度の実績が87基、そして22年度は89基を見込んでいることから、もし不足した場合は県と協議を行い基本的に申込者全員に補助金を交付できるようにしたいとの考えを示した。

◇福館橋周辺の道路整備について

花岡から国道7号線に抜ける福館橋周辺の道路は非常に狭く、特に朝7時から8時の通勤時間が最も事故が多く町内の人々が不安を感じている。計画の中の・花岡中・矢立中の統合も見据えて、短期的には警察署や関係機関と協議し制限速度を下げることも、また、中長期的には道路の再整備計画を立て、下流に橋を新設し安全で安心な交通体系となるよう、早急に調査・検討することとした。

私もひ・と・じ・と ⑦

このコーナーではみなさんからの「なまの声」を募集しています。お気軽にご投稿下さい。

ワンディシェフの店 オーナー

畑 沢 貴美子さん (隼人町)



「私が元気な理由（わけ）」

子育てが一段落したころ、私は鷺谷豊著「大館歴史散歩」を片手に夢中で大館市近郊を歩きました。その時に、二井田地区にある錦神社に藤原泰衡が祭られていることを知りました。「私はなんて歴史ロマンあふれる場所に住んでいるのだろう」と幸せいっぱい気持ちになりました。大館は今のままでいいと思います。日本の歴史を振り返ると江戸時代までは常に隣国と戦（いくさ）をしていました。明治維新以後、昭和20年の終戦までの間は法律で強制的に男子は戦争に行かされていきました。江戸時代は幕末を除けば戦はありませんでしたが、士農工商の身分制度があり、今のような自由はありませんでした。「昔は良かった」と言います

が、私は「今が良い」と思います。これ以上を望むことは欲張りであり、心にも安らぎがなくなる気がします。このままの大館市を現状維持するのも大変な努力が必要ですが、その点、大館の人たちは本当によく努力をしていると思います。大館を大好きな若者たちは新しいアイデアを出し合い、協力し合っています。いつも感心しています。中高年の人たちは寂しさや悲しみを心に秘めながらも明るく振る舞い、地域の活動をしているように思っています。

私の「明るい気持ち」には理由があります。50歳の時に私は、秋田県コミュニティビジネス推進事業の補助金で自宅を改造し、菓子製造販売業の許可を得て、手づくりケーキの販売を始めました。現在は大館市の柳町公園で開かれている「七日市」にも出店しています。400年も続いている「七日市」に出店している喜びが私の元気の源なのです。人の性格にもよりますが「ビジネス（商売）」は私を生き返らせました。

みなさんは大館の特産品をインターネットを通じて全国に販売してくれる会社があるのをご存知でしょうか。米粉を使って私が作ったシフォンケーキも販売し

ています。昨年は売り上げの20%がネット販売でした。大きな会社が小さな店を応援してくれているのです。私は働くことが楽しいです。もうかったお金を始めるからです。コミュニティビジネスを始めたことで多くの人と知り合い、少しのお金と胸いっぱい幸せが手に入ったと思っています。旧正札にあるNPO支援センターへ行くと親切にアドバイスしてもらえます。年齢にかかわらずコミュニティビジネスは始められます。また、田町にある「ワンディシェフの店」を前任者から引き受けて4年になります。ここでも日替わりのシェフがお客様に得意な料理を提供してお金をいただく、コミュニティビジネスを展開しています。その当時、ある男性市議がお酒の席で「主婦の道楽だ」と言っていたと聞いたときは悲しかったのですが、「お客様からお金をいただくのだから道楽ではできない」との励ましもあり、頑張ることができました。年間6000人以上の人が田町へ足を運んでくれています。ここではビジネスのほかに、人と人が知り合い、つながって行く楽しさも味わっています。このままの大館で元気に働き続けることが私の幸せです。



市議会を傍聴してみませんか

定例会と臨時会の本会議はどなたでも傍聴できます。

傍聴されるかたは、市役所東側（裁判所側）3階の議場入口で受付簿に住所・氏名等をご記入のうえ、係員の指示に従って議場へお入りください。

なお、団体での傍聴をご希望の場合は、傍聴席の数に限りがありますので、あらかじめ議会事務局にご連絡ください。

☎ 4317108（直通）

編集後記

3月定例会で「非核三原則の法制化を（国に）求める意見書」を採択しました。広島、長崎の被爆から65年目、人類がつくり出した最も残忍な核兵器により地獄のような体験をした多くの被爆者は今も苦しんでいます。核兵器を使用した唯一の国アメリカのオバマ大統領も「核兵器のない世界を追求する」と明言しているように、我が国でも「核兵器を持たず、つぐらず、持ち込ませず」の非核三原則を法制化させ、この地球から核をなくすことが強く求められています。戦争のない平和な社会を私たちの子や孫に残してあげるためにも。

（相馬エミ子 記）